

[報告 1]

## 組合員主体の JA 運営へのこだわり

総会主義・組合員訪問・新加入・女性参画に取組み、見えてきたこと

松下雅雄 (JA はだの代表理事組合長)

農協は地域の真ん中になければいけない、と思っている。つまりいかに地域や組合員の役に立つかということをいつも肝に銘じている。

### 組合員主体の JA づくり

いままでの JA は、JA が主体になりがちであったが、これからは組合員主体の JA が必要だといえる。運営については民主的な運営でなければいけないと思っている。

JA はだのでは小規模な農協だが、総会を開催している。正会員はもとより准組合員も参加し、地域をあげての総会となっている。総会に参加することで、農協の課題などを共有でき、准組合員の意識改革にもなっている。

また春の座談会と秋の座談会を 83 会場で開催している。総会の中では発言者は限られてしまうため、農協の今の姿を正しく伝えること、農協の運営に参画してもらうこと、協同活動に参加してもらうことを目的として開催している。

さらに組合員訪問日設け、毎月 26 日に組合員を一斉訪問している。このねらいは①農協と組合員の距離を縮めること②職員の教育の場にする③JA からの情報提供を促進④協同活動の手助けをすること⑤職員は日常の仕事の反省をする機会ということで、実施している。

女性参画の促進については、10 年以上前から女性が理事を務め、組合活動に参画している。組合員増加運動も実施し、組合員を 1 万人に増やそうという計画で進めている。

### 文化活動、教育広報活動の積極的展開

文化活動、教育広報活動では、これらを通じ、広く JA への理解を深めると同時に幅広い視野を持った人材と組織の育成を目指している。



女性部を中心とする「家の光」をテキスト代わりにした勉強会、小・中・高生の参加する書道・図画・作文コンクールなどを開催している。書道・図画については、韓国・台湾・中国・タイとも作品を交換し、国際交流も深めている。教育広報活動については、JA はだのでは教育基金を積み立てるなどして継続できる仕組みを作っている。

### JA はだのらしさをつくる取組み

福祉活動では、デイサービスセンターを運営しているが、地域の方々のボランティアとしての参加が欠かせない。ファーマーズ・マーケット「はだのじばさんず」は 4 年目になるが、経営は順調。それは出荷者の 3 割を占める女性パワーのおかげだと思っている。売上が順調に伸びているということで、地域の消費者からも支持されているといえるだろう。特定農地貸付事業に関しては、特定農地の約 100 m<sup>2</sup> をおよそ 200 人の市民に貸し出している。

このような取組みにより、21 世紀は協同組合の時代、農業の時代にしようではないかということをも市民にも呼びかけている。